

2 療養型病棟における口腔ケアの実態と医科歯科連携事業への取り組みについて —要介護高齢者の介助磨きにおける音波歯ブラシ導入の効果—

工藤百恵, 木暮ミカ¹, 深井裕子

明倫短期大学 附属歯科診療所, ¹歯科技工士学科

keywords: 要介護高齢者, 介助磨き, 音波歯ブラシ, 療養型病棟

はじめに

障害者の歯科治療は実施が困難であることより, 器質的口腔ケアによる歯科疾患の予防は特に重要である。しかし, 口腔ケアの基本的な手段であるブラッシングについて, 手用歯ブラシによる障害者の介助磨きは, 実施に困難を伴うことが多く, 時間を要する割に十分なプラークコントロールが難しい。そこで音波歯ブラシの効果的な臨床適用を検討する目的で, 療養型病棟に長期入院中の患者を対象に, 口腔ケアに音波歯ブラシを導入する前後における口腔内状況の変化を調査した。

対象および方法

対象は, 療養型病棟である聖園病院に長期入院中の患者で, 介助磨きを全面的に必要とする障害者6名とした。

導入した音波歯ブラシは「GC プリニア スリム PRINIA Slim 音波振動歯ブラシ」である。

実施期間は2009年～2012年とし, 毎年一回口腔内診査および口腔ケア内容調査を行った。診査及び調査項目は以下の通りである。

【口腔内診査項目】現在歯数, 齲歯数, 処置歯数, 健全歯数, 喪失歯数, 歯肉の状況, 歯周病の有無, 歯石の有無, 口腔乾燥症の有無, 舌苔の有無, 口腔清掃状況

【口腔ケア内容調査項目】義歯の使用状況, 摂食状況, 嚥下機能, 含嗽の可否

結果

1. 対象者6名の平均年齢は80歳で, 全員が脳血管疾患により要介護度「5」であった。また, 摂食状況は胃瘻による経管栄養が4名, 経鼻による経管栄養が2名であった。

2. DMFT値に経年的な変化は認められなかった。歯肉・歯周病・歯石の状況も変化はなかった。
3. 口腔清掃状況についても改善は認められなかった。

考察

音波歯ブラシが要介護高齢者の口腔状況改善に効果があることは, 日本歯周病学会や日本障害者歯科学会等において過去多数の報告があるが, 今回の対象者には有用性が認められなかった。これは介助者のブラッシング方法が適切ではなかったことや, 音波歯ブラシを導入する頻度, そして患者の口腔ケアに対する強い抵抗が原因であったと考えられる。

まとめ

療養型病棟入院患者の介助磨きに音波歯ブラシを導入し, 口腔状況の経年的変化と今後の課題について検討を行った。対象者は要介護度5であり, ADLの改善や多様な障害に対する対応を主としているので, 歯科治療に至ることのないように予防を重視した口腔ケアマネジメントが必須であると考え, 音波歯ブラシの導入を実施した。しかし導入前後の口腔状況に有意差は見られなかったことより, 今後は介助者へ使用法を再指導するとともに, 介助者の音波歯ブラシの使用感について調査し, 患者の身体的および口腔内の状況に合わせた効果的な導入方法等を検討していく必要がある。